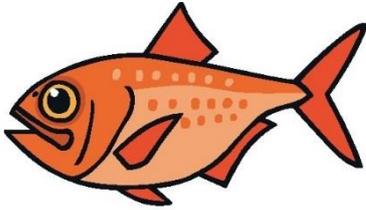


A 資源評価票

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

キンメダイ



- ・水深 200~800m の海山や陸棚縁辺部に生息し、県内では銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場で立縄（釣り）により漁獲される。
- ・満 2 歳で尾叉長 19cm 体重 180g に達した後、4 歳で 27cm 430g、10 歳で 35cm 1,050g に達する。
- ・産卵期は 6~8 月。

資源評価

銚子沖

水準：高位

動向：横ばい



勝浦沖

水準：高位

動向：横ばい



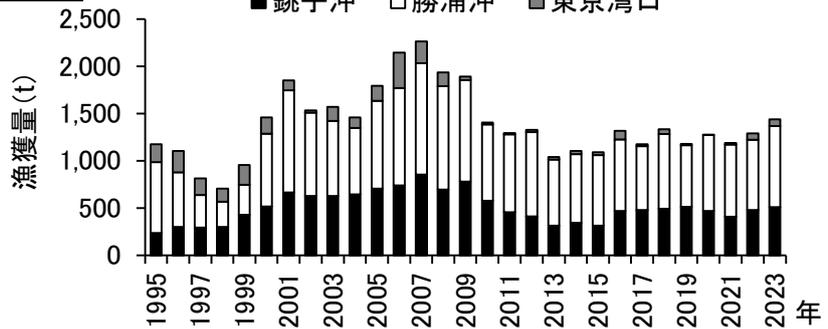
東京湾口

水準：中位

動向：増加



漁獲量



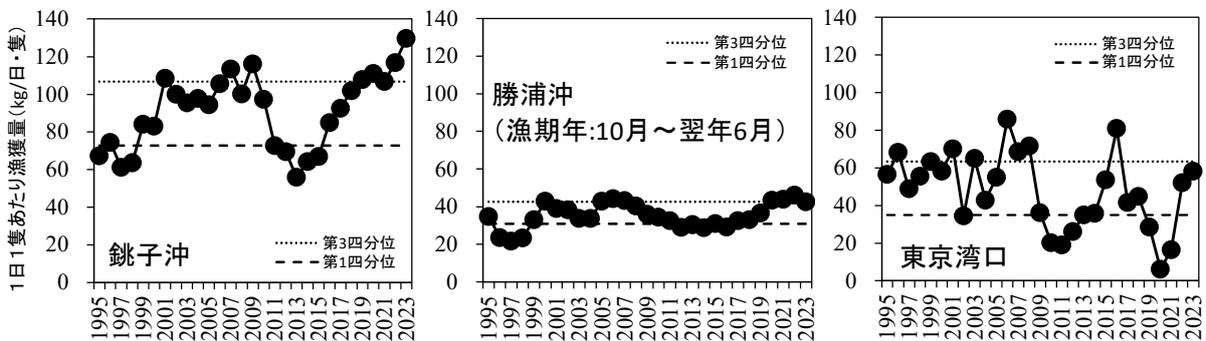
キンメダイの漁場別漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し、2007 年には最大の 2,263t が漁獲された。2008 年以降は減少傾向が続き、2013 年は 1,039t となったが、その後は緩やかな増加が見られ、2023 年は 1,467t であった。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から四分位数により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・資源水準及び動向は、漁場ごとに 1995 年以降の立縄漁業の CPUE (1 日 1 隻当たりの漁獲量) で判断した。
- ・2023 年の資源水準は、銚子沖は高位、勝浦沖は高位、東京湾口は中位水準にある。最近 5 か年の動向は、銚子沖は横ばい、勝浦沖は横ばい、東京湾口では増加傾向にある。



銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場における立縄漁業による 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化

資源管理の取組

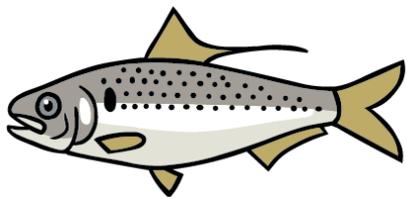
- ・漁場ごとに小型魚の再放流（銚子沖・勝浦沖全長 25 cm以下、東京湾口全長 22 cm以下）、針数・縄数の制限、休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。

備考

- ・勝浦沖及び東京湾口漁場では 2009 年以降、漁業者の高齢化等により着業隻数が減少している。
- ・国が実施した資源評価では、関東沿岸から伊豆諸島周辺海域における 2023 年の親魚量は MSY を実現する水準を上回り、動向は増加と判断されている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

コノシロ（東京湾）



- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は4~7月で、産卵場は当初は東京湾の湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

資源評価

水準：高位

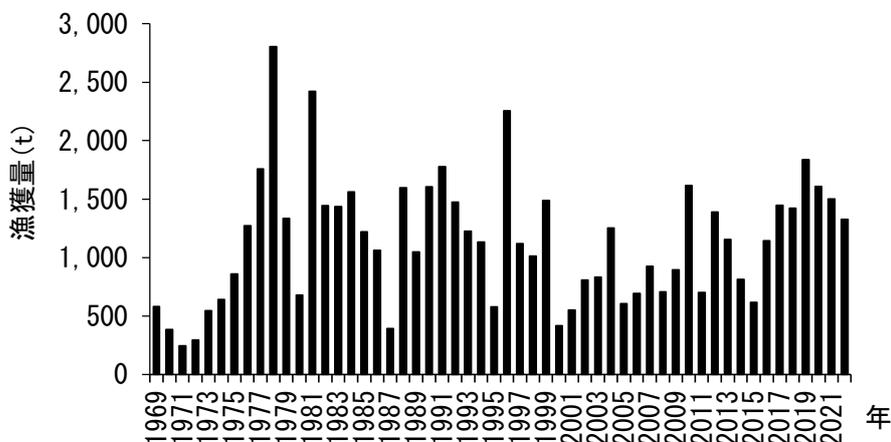


動向：増加



漁獲量

- ・ 漁獲量の年変動が大きく、1978年に2,805tを記録したが、その後、増減を繰り返し、2015年には615tとなった。
- ・ その後、2019年まで増加し、2022年は1,328tであった。

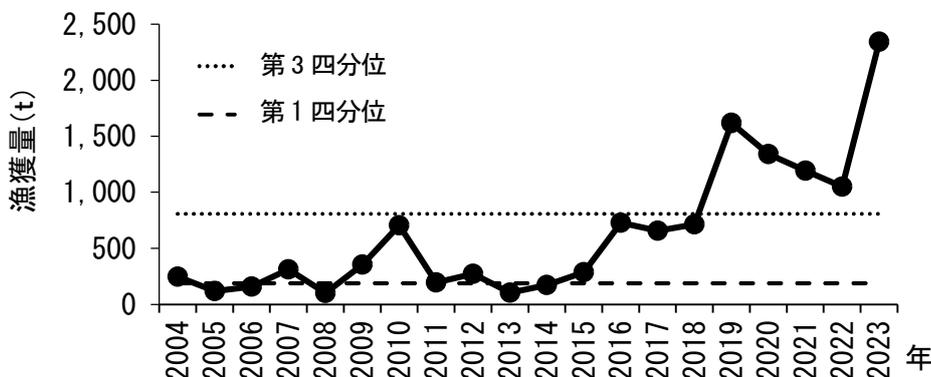


コノシロ漁獲量の経年変化
(千葉農林水産統計年報，漁業・養殖業生産統計)

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、東京湾の主要漁協における中・小型まき網の漁獲量で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は過去20年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。



東京湾の主要漁協における中・小型まき網のコノシロ漁獲量の経年変化

資源管理の取組

- ・ 東京湾においては、中・小型まき網での春期又は冬期の休漁期間の設定、小型機船底びき網での休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

サヨリ（東京湾）



- ・ 主に機船船びき網（2 そうびき）により冬～春に漁獲される。
- ・ 寿命は約2年で、最大で全長40cm程度に成長する。
- ・ 産卵期は春季で、着生している海藻類や流れ藻に産卵する。

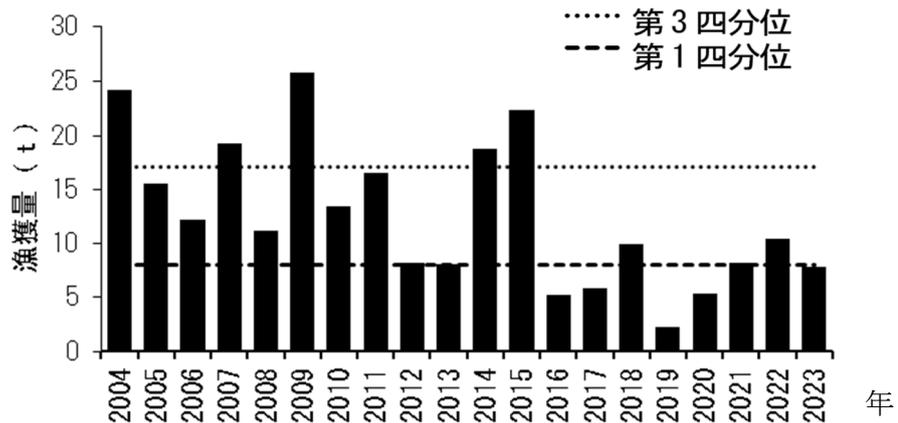
資源評価

漁獲量

水準：低位



動向：増加

東京湾の主要漁協におけるサヨリ漁獲量の経年変化
(千葉県調べ、年は漁期年：11月～翌10月)

東京湾の主要漁協におけるサヨリ漁獲量は年変動が大きく、2009年に26tを記録したが、その後、増減を繰り返し、2016年以降は低水準で推移した。2023年は8tとなった。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（漁獲量）から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、東京湾の主要漁協における2004年以降の漁獲量で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は低位、過去5年間の資源動向は増加傾向にある。

資源管理の取組

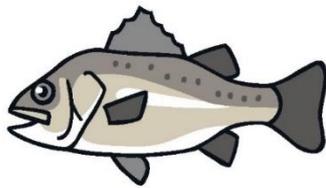
- ・ 機船船びき網漁業（さより船びき網漁業）の許可の制限措置及び条件により、操業期間、漁具の制限など、公的な資源管理が行われている。

備考

- ・ 今後データを蓄積して資源水準の指標としてCPUEを導入するか検討する必要がある。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

スズキ（東京湾）



- ・ 漁獲のほとんどが東京湾内湾・内房海域で、中・小型まき網、小型機船底びき網などで漁獲される。
- ・ 東京湾における産卵期は10月下旬～3月上旬で、産卵場は東京湾の湾口部にある。
- ・ 1983年から1998年まで種苗放流を実施していた。

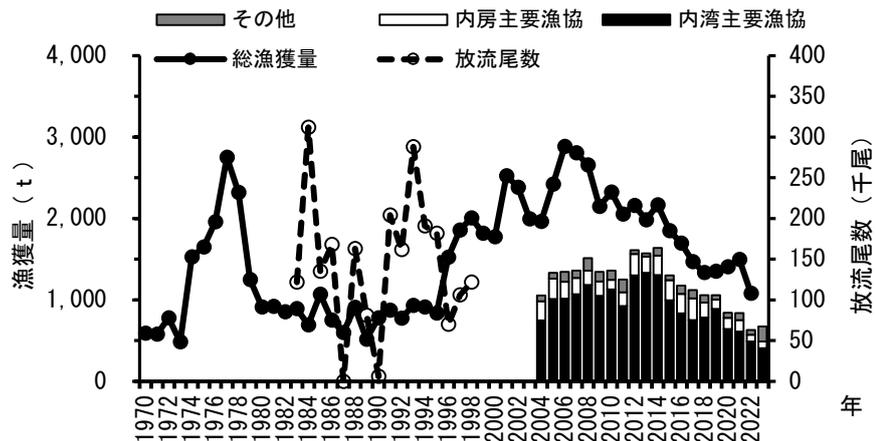
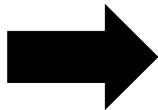
資源評価

漁獲量

水準：中位



動向：横ばい



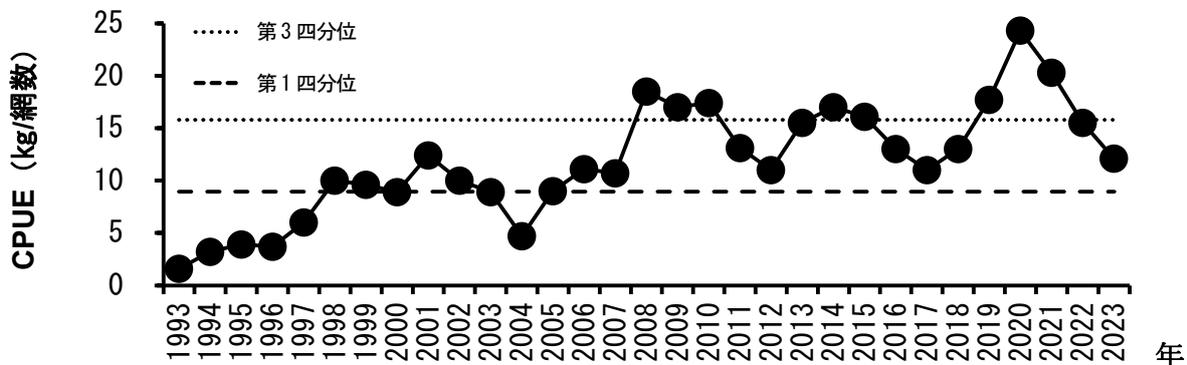
すずき類漁獲量と放流尾数の経年変化
千葉県農林水産統計年報（総漁獲量），千葉県調べ

千葉県におけるすずき類の漁獲量は、1990年代後半に著しく増加し、2006年に過去最高の2,886tとなった後、減少傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



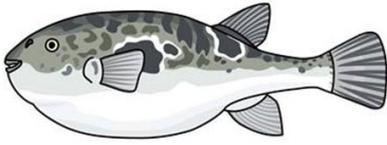
小型機船底びき網の標本漁船によるスズキの1網当たり漁獲量 (kg/網数：CPUE) の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は6～16隻

資源管理の取組

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限、中・小型まき網で春又は冬期の休漁期間の設定など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

トラフグ



- ・ はえ縄，定置網，小型機船底びき網，まき網などで漁獲される。
- ・ 1歳で全長26cm (0.4kg)，2歳で40cm (1.4kg)，3歳で48cm (2.9kg) に成長し，寿命は10年程度と考えられている。
- ・ 産卵期は4～5月で，成熟年齢は雄で2歳，雌で3歳。

資源評価

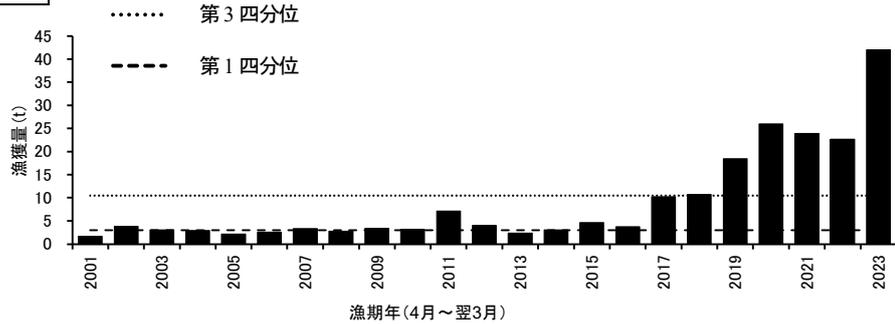
水準：高位



動向：増加



漁獲量



県内主要漁協におけるトラフグ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

主要漁協におけるトラフグ漁獲量は，2001～2016年漁期は約2～7tで推移していたが，2017年漁期に10.2tに急増し，その後も増加傾向を示し，2023年漁期は42.0tであった。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

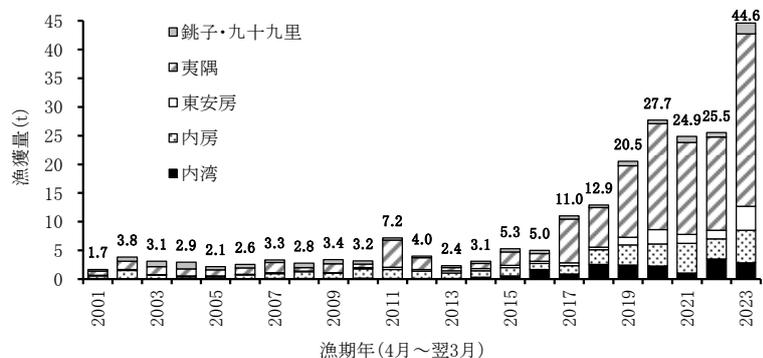
- ・ 資源水準及び動向は，漁獲量の推移から判断した。
- ・ 2023年漁期の資源水準は高位，最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

資源管理の取組

- ・ はえ縄では操業期間の制限など漁業者による自主的な資源管理が行われている
- ・ 県では，放流種苗の移動・分散及び放流効果を把握するため，2015～2019，2022，2024年に東京湾において，2020，2021，2023年に外房において標識放流試験を行っている。

備考

現在，国は日本海・東シナ海・瀬戸内海系群(21府県)，伊勢・三河湾系群(三重～静岡)の資源評価を行っている。この2系群と千葉県沿岸域に分布するトラフグとの関連を明らかにするため，水研機構と連携して調査を進めている。

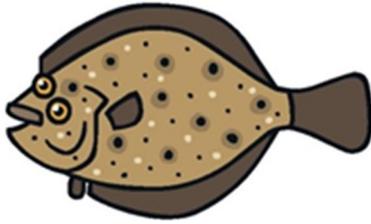


(参考) 地域別トラフグ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

夷隅地域のはえ縄で漁獲が急増している。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

ヒラメ



- ・ 砂浜域に生息し、銚子～富津の沿岸で底びき網、刺し網、定置網などにより漁獲される。
- ・ 1歳で全長35cm、2歳で45cm 体重1kgに成長し、3歳以降は雌雄差が拡大し、5歳では雄が60cm 体重2.3kgに対して雌では70cm 体重3.9kgに達する。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1982年から種苗放流を実施。
- ・ 漁獲量変動・移動特性等から、勝浦市以北は太平洋北部系群、鴨川市以西は太平洋中部系群に区分される。

資源評価

太平洋北部系群

(勝浦市以北)

水準：低位

動向：減少



太平洋中部系群

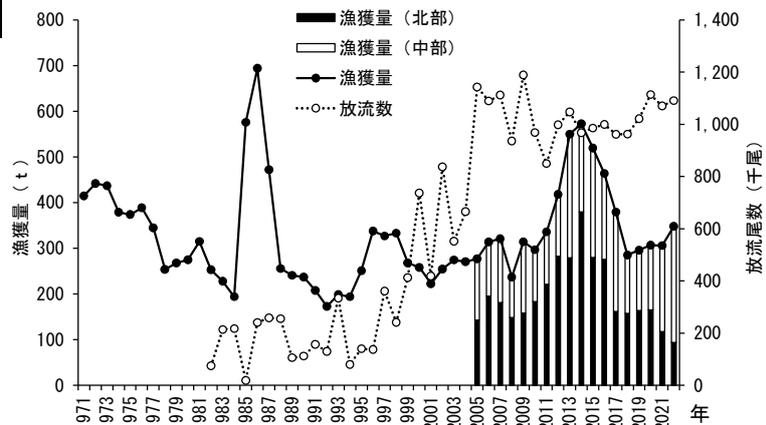
(鴨川市以西)

水準：高位

動向：増加



漁獲量



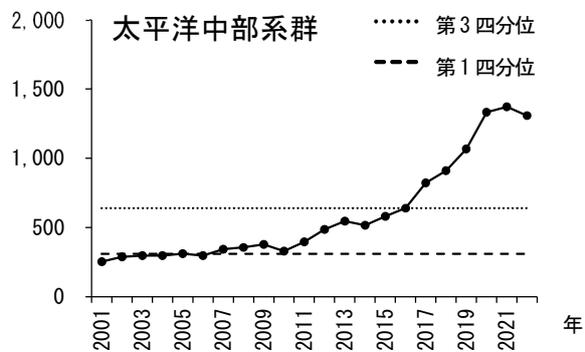
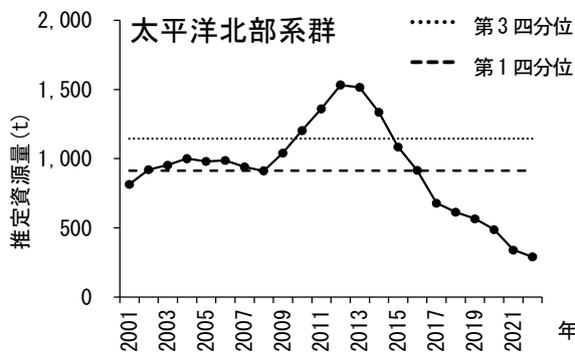
千葉県におけるヒラメ漁獲量と放流尾数の経年変化
(漁獲量は千葉県農林水産統計、漁業・養殖業生産統計、系群別漁獲量は千葉県調べ)

1971年以降、漁獲量が一時的に増加した1985～1987年及び2013～2015年を除き、300t前後で推移した。2022年は348t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(資源量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲物測定、統計から推定される1歳魚以上の資源量で判断した。
- ・ 2022年の資源水準は太平洋北部系群で低位、太平洋中部系群で高位水準にある。最近5年間の資源動向は太平洋北部系群で減少、太平洋中部系群で増加となった。



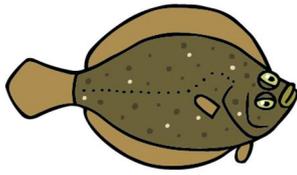
太平洋北部系群及び太平洋中部系群における推定資源量の経年変化

資源管理の取組

小型魚(全長30cm未満、底びき網は25cm未満)の再放流や漁具設置時間の制限など、漁業者の自主的な資源管理が行われている。また、関係機関が連携し、種苗放流を行っている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

マコガレイ (東京湾)



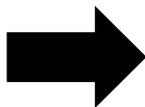
- ・ 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺し網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991年から種苗放流を実施。

資源評価

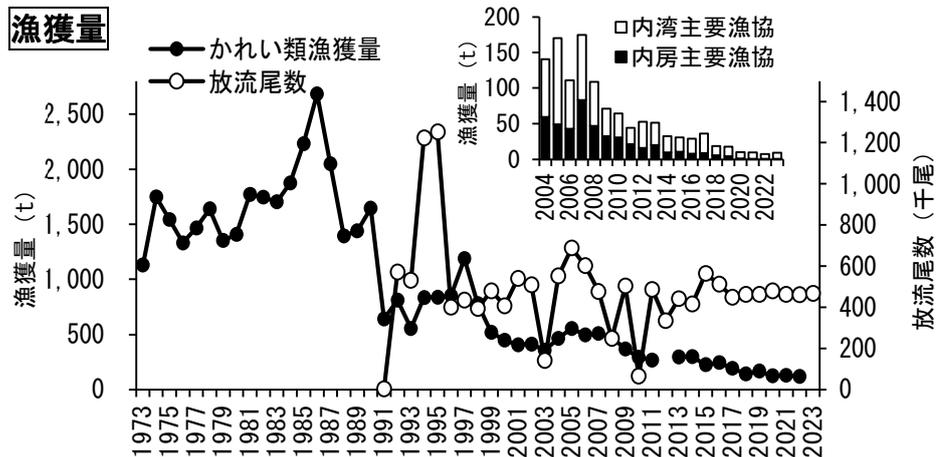
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



かれい類漁獲量，マコガレイ地区別漁獲量及び放流尾数の経年変化
(千葉県農林水産統計年報 (かれい類漁獲量)，千葉県調べ)

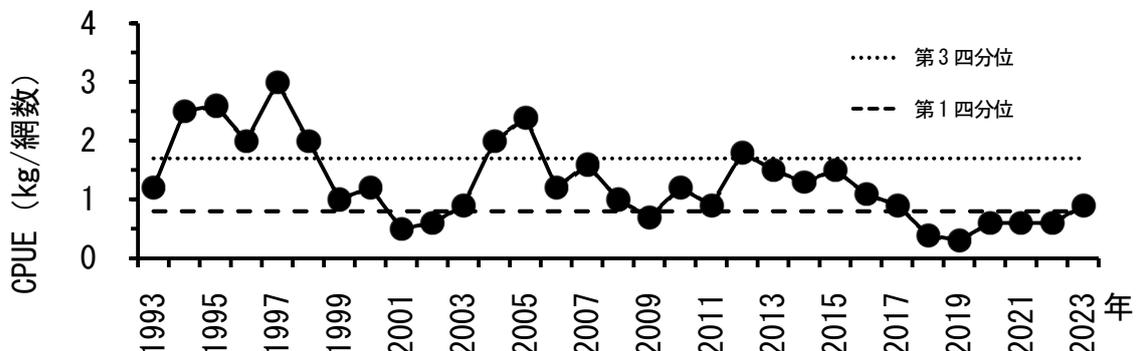
東京湾におけるかれい類の漁獲量は、過去にはイシガレイ主体であったが、その後マコガレイ主体となった。

マコガレイの漁獲量は、長期的に減少傾向にあり、2008年には100t程度だったが、近年は10~20t程度で低迷している。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



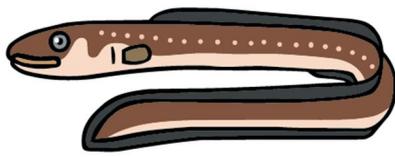
小型機船底びき網の標本漁船によるマコガレイの1網当たり漁獲量(kg/網数:CPUE)の経年変化

資源管理の取組

- ・ 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限、稚魚や産卵親魚の保護のための禁漁区設定、県との稚魚分布調査など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991年から県が種苗放流を行っている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

マアナゴ



- ・ 東京湾においては、あなご筒、小型機船底びき網で、銚子・九十九里においては、沖合底びき網、小型機船底びき網、はえ縄で漁獲される。
- ・ 産卵場は、沖ノ島島南方の九州ーパラオ海嶺上で、葉形仔魚（通称：のれそれ）が日本沿岸に来遊する。

資源評価

東京湾

水準：低位



動向：不明（※）



※近年の資源水準は低水準であり、現在、集計対象の標本漁船ではマアナゴを目的とした操業がほとんど行われていないことから、最近5年間の1網当たり漁獲量の変化は資源動向を的確に表していない可能性があり、不明とした。

銚子・九十九里

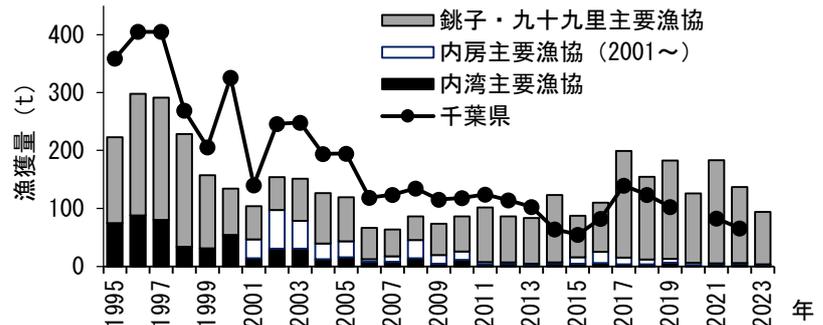
水準：中位



動向：減少



漁獲量



あなご類漁獲量の経年変化

棒グラフ：千葉県調べ

折れ線グラフ：2006年までは千葉農林水産統計年報、

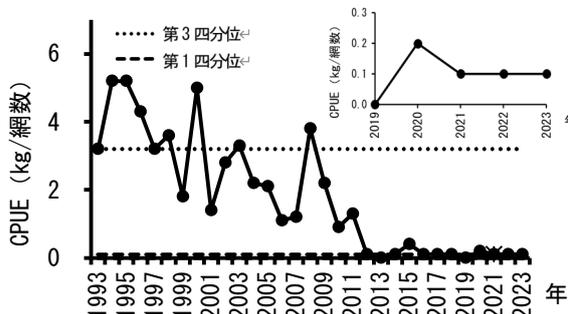
2007年以降は千葉県調べ

千葉県におけるあなご類の漁獲量は、1998年以降、減少傾向で、近年東京湾では10t以下の低水準であるのに対し、銚子・九十九里では90-180t程度で推移している。

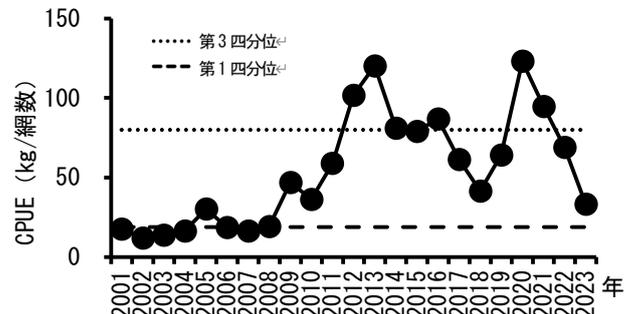
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網（東京湾）又は沖合底びき網（銚子・九十九里）の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2023年の資源水準、最近5年間の資源動向は、東京湾では低位、不明（※）、銚子・九十九里では中位、減少傾向にある。



東京湾における小型機船底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、6~12隻



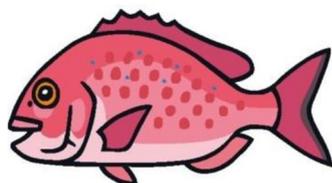
銚子地区における沖合底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、1又は2隻

資源管理の取組

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限及び漁具の制限、あなご筒で水抜き穴の拡大による小型魚の保護など、銚子・九十九里においては、小型機船底びき網で改良漁具導入による小型魚の保護や沖合底びき網で操業の制限など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

マダイ



- ・ 海底が起伏に富んだ岩盤または砂礫質の水域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網、刺し網、定置網、釣りなどにより漁獲される。
- ・ 尾叉長は1歳で16cm, 2歳で24cm, 3歳で31cmとなり、体重は4歳で1kgを上回り、6歳で2kgを超える。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1982年から種苗放流を実施。

資源評価

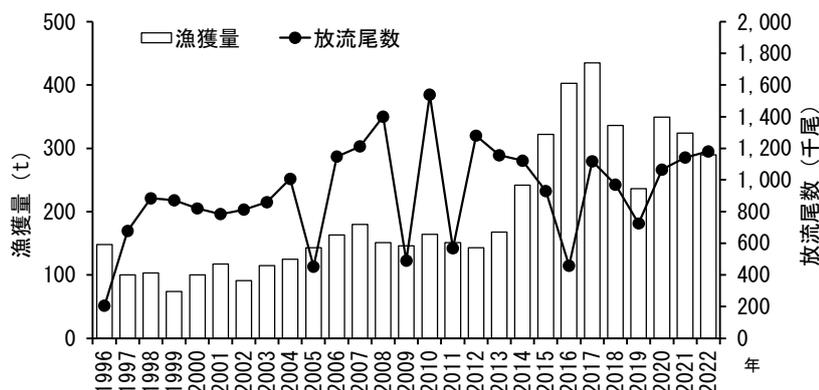
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



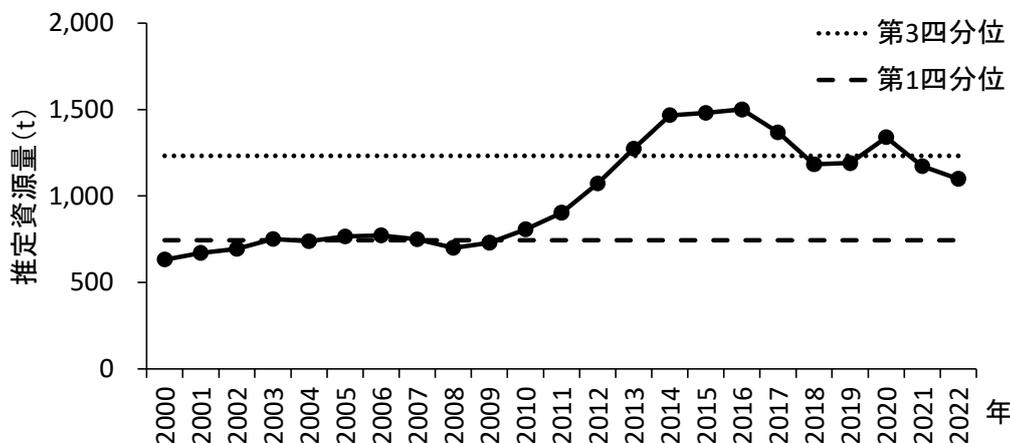
千葉県におけるマダイ漁獲量と放流尾数の経年変化
(漁獲量は千葉農林水産統計, 漁業・養殖業生産統計)

- ・ 1996年以降100～200t前後で推移し、2014年以降は増加に転じ、2017年は過去最大の435tが漁獲された。
- ・ 2022年は290t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(資源量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲物測定、統計から推定される1歳魚以上の資源量で判断した。
- ・ 2022年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向となった。



千葉県におけるマダイ推定資源量の経年変化
(マダイ年度(各年5月～翌年4月)での集計)

資源管理の取組

- ・ 小型魚(全長20cm以下)の再放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。
- ・ 漁業者と関係機関が連携し、種苗放流を実施している。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

クロアワビ

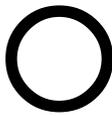


- ・ 沿岸の岩礁域（メガイアワビより浅い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- ・ 4～5歳で制限殻長の12 cm(230g 前後)に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は10月～翌年1月。
- ・ 1968年から種苗放流が行われている。
- ・ 2023年の調査対象地区※一般漁場における放流貝の混入率は、0～3%。

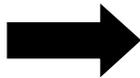
※ 漁獲物調査を実施している千倉2地区、鴨川1地区、勝浦1地区。

資源評価

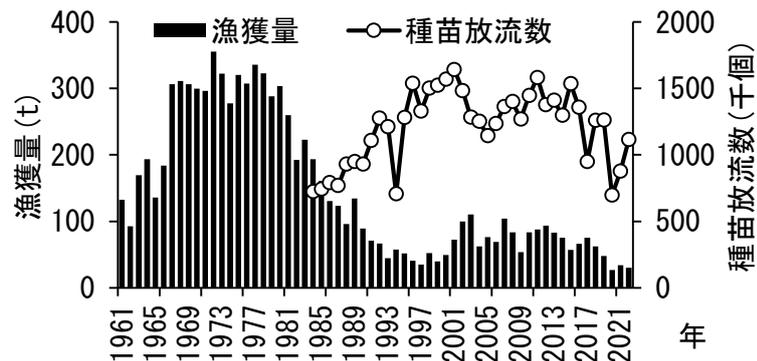
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



クロアワビ漁獲量及び種苗放流数の経年変化

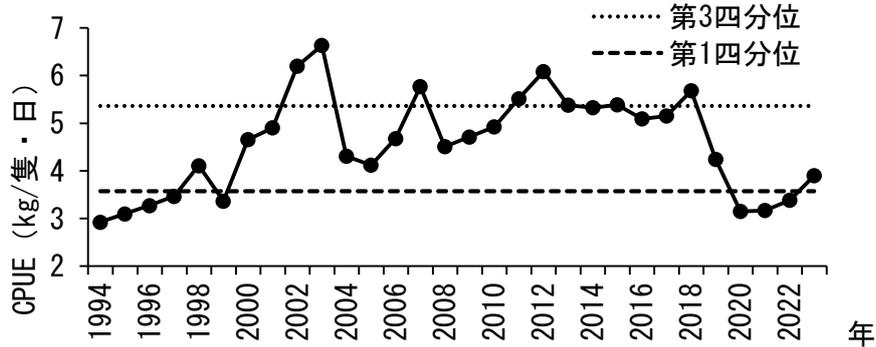
(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数※は栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国)) ※1968～1983年は不明

- ・ 最大は1972年の355 t, 最小は2020年の27 t。
- ・ 2022年は30t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2023年の資源水準は過去30年間で中位, 最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



クロアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取組

- ・ 千葉県漁業調整規則で殻長制限(12 cm 以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(9/16～3/31)が定められている。
- ・ 漁法の制限, 操業時間の制限, 種苗放流, 密漁対策, 禁漁区の設定, 輪採方式の導入及び稚貝保護区の設定等, 漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

メガイアワビ



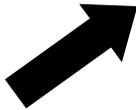
- ・ 沿岸の岩礁域（クロアワビより深い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
 - ・ 4～5歳で制限殻長の12cm(210g前後)に達する。
 - ・ アワビ類の産卵期は10月～翌年1月。
 - ・ 1968年から種苗放流が行われている。
 - ・ 2023年の調査対象地区※一般漁場における放流貝の混入率は、0～1%。
- ※ 漁獲物調査を実施している千倉2地区、鴨川1地区、勝浦1地区。

資源評価

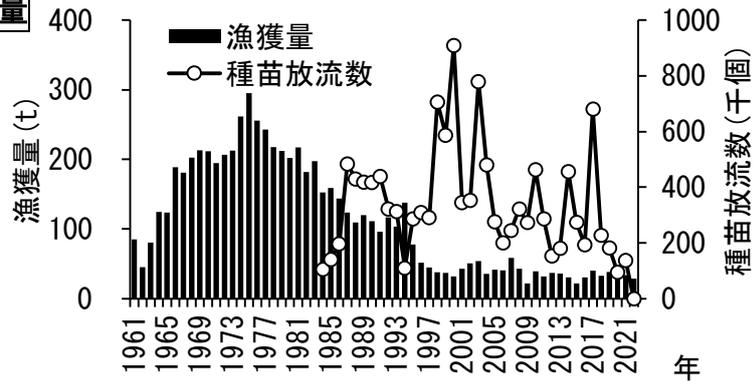
水準：高位



動向：増加



漁獲量



メガイアワビ漁獲量及び種苗放流数の経年変化

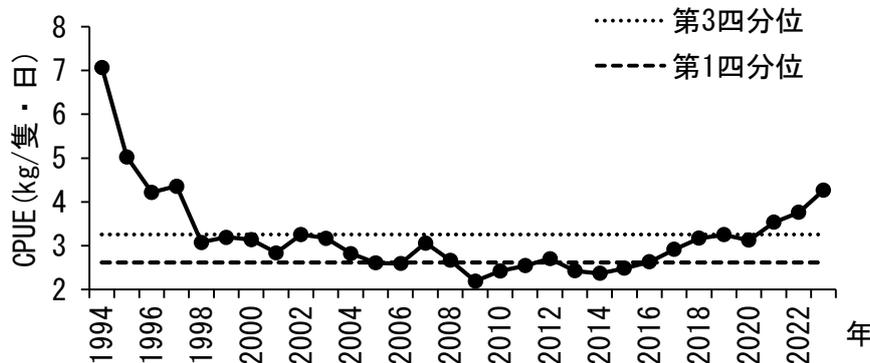
(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数※は栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国)) ※1968～1983年は不明

- ・ 最大は1975年の295t、最小は2009年の22t。
- ・ 2022年は29t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2023年の資源水準は過去30年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。



メガイアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取組

- ・ 千葉県漁業調整規則で殻長制限(12cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(9/16～3/31)が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び禁漁区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

サザエ



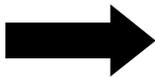
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に内房～外房地区で刺し網、見突き、素潜りにより漁獲される。
- ・ 3～4歳で制限殻高の7cm(90g前後)に達する。
- ・ 産卵期は5～9月。

資源評価

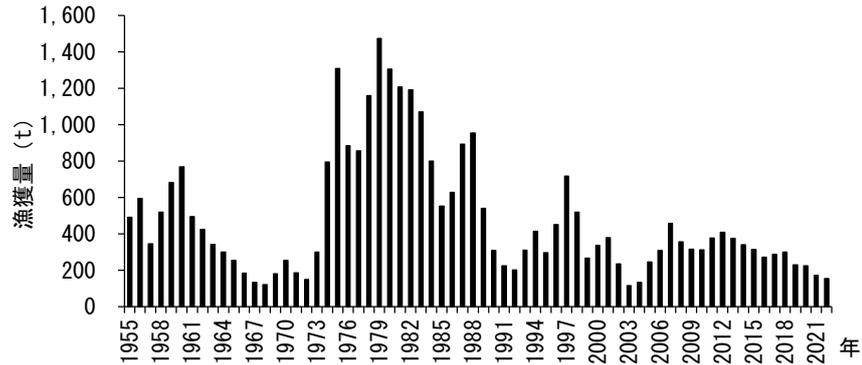
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量



サザエ漁獲量の経年変化

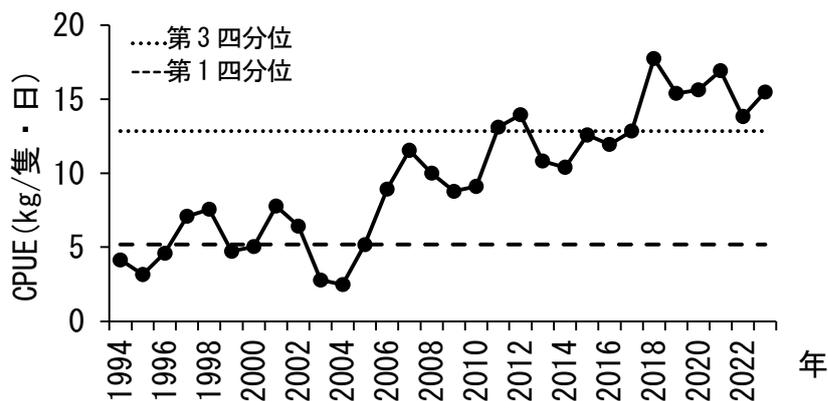
(千葉農林水産統計年報、漁業・養殖業生産統計)

- ・ 最大は1979年の1,474t、最小は2003年の116t。
- ・ 2022年は154t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区の刺し網漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2023年の資源水準は最近30年間の高位。最近5年間の資源動向は横ばいとなった。



サザエ主要漁協刺し網漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取組

- ・ 千葉県漁業調整規則で殻高制限(7cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(6/1～6/30)が定められている。
- ・ 操業期間の制限など、漁業者による自主的な管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

ダンベイキサゴ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による貝けた網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻径約1.2cm、2歳で2.3cmに成長し、3歳で3.0cmとなり、寿命は5年以上と考えられ、3.5cmを超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は4月～6月、11月末～翌年1月。

資源評価

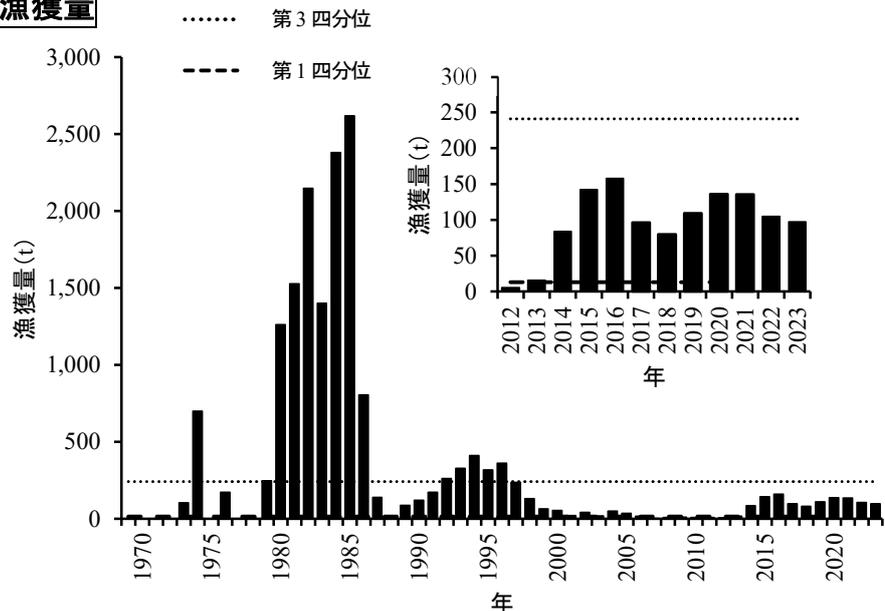
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



ダンベイキサゴ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・ 1970年代は、1974年を除き低位から中位で推移したが、1980年代には1,000 t以上に増加し、1986年まで高位で推移した。
- ・ 1988年には10 tまで減少したが、再び増加し、1994年には400 t以上の漁獲があった。その後再び減少がみられ、2012年まで低位で推移したが、2014年以降増加し、2023年は97 t漁獲された。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。
 資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばいとなった。

資源管理の取組

- ・ 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制、操業隻数・日数の制限、網目・漁獲サイズの制限、禁漁期の設定など、漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価票

チョウセンハマグリ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による貝けた網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻長約1cm, 2歳で3~4cm(7~16g)に成長し, 3歳で5~6cm(31~54g)となり, 寿命は10年以上で10cm(250g)を超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は6月下旬~9月。

資源評価

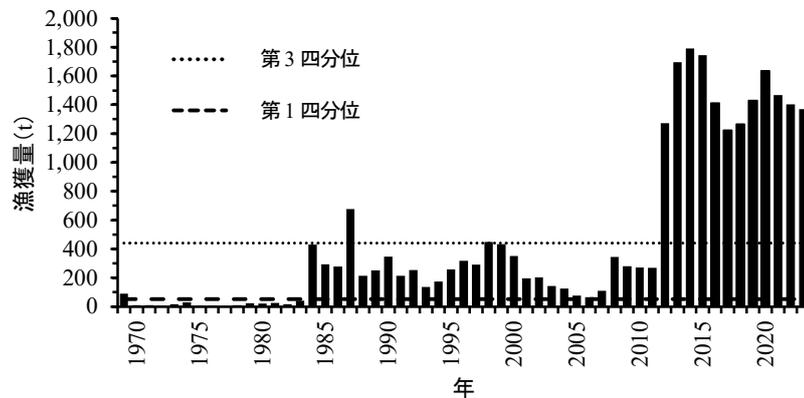
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量



チョウセンハマグリ漁獲量の経年変化

(2006年まで千葉農林水産統計年報, 2007年から千葉県調べ)

- ・ 1969~1983年は低位で推移していたが, 1984~2011年は70~660tで増減を繰り返す, 2012年に急増して以降, 1,000t以上の漁獲が続いている。
- ・ 2012年は, 2009年生まれの卓越年級群の加入により漁獲が急増したと考えられる。
- ・ 2009年以降に生まれた年級群の漁獲への加入も継続している。
- ・ 2023年は1,370t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は高位, 最近5年間の資源動向は横ばいとなった。

資源管理の取組

- ・ 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制, 操業隻数・日数の制限, 網目・漁獲サイズの制限, 禁漁期・資源保護区域の設定, 小型貝の沖出し放流など, 漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

イセエビ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に外房地区で刺し網により漁獲される。
- ・ プエルルスに変態し、沿岸域に着底後2歳で制限体長の13 cm (80g 前後)に達する。
- ・ 産卵期は5~9月。

資源評価

水準：高位

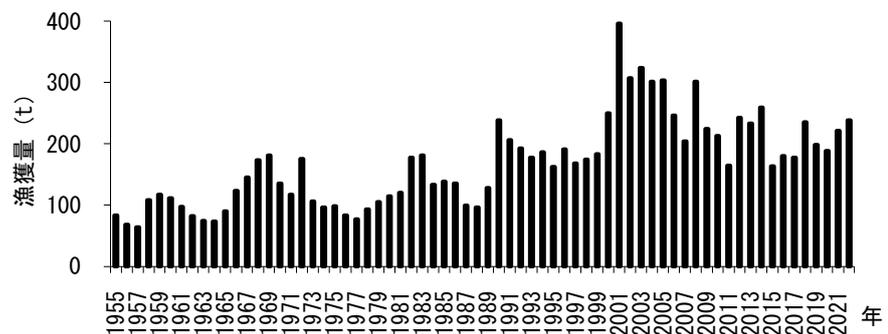


動向：増加



漁獲量

- ・ 1955年以降緩やかな増加傾向にあり、2001年は過去最大の396 t となった。
- ・ 2022年は238 t。

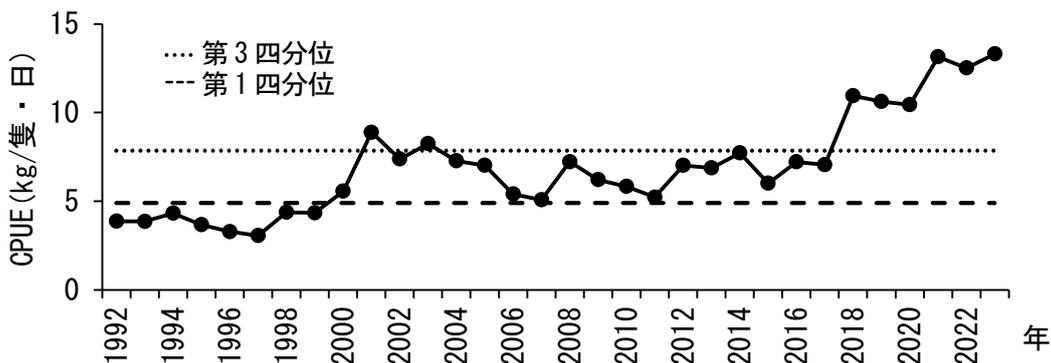


イセエビ漁獲量の経年変化
(千葉県農林水産統計年報、漁業・養殖業生産統計)

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要漁協の刺し網漁業 CPUE で判断した。
- ・ 2023年の資源水準は最近32年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



イセエビ主要漁協の刺し網漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取組

- ・ 千葉県漁業調整規則で全長制限(13 cm 以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(6/1~7/31)が定められている。
- ・ 漁具(刺し網の使用反数)の制限、操業時間の制限、小型個体の再放流等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

コウイカ（東京湾）



- 千葉県沿岸では、主に東京湾内湾南部～内房北部で小型機船底びき網により漁獲される。
- 東京湾における産卵期は春季で、アマモ類や海藻類などに産卵する。
- 寿命は約1年で、産卵後に死亡するため、夏季にはほとんど漁獲がみられなくなる。

資源評価

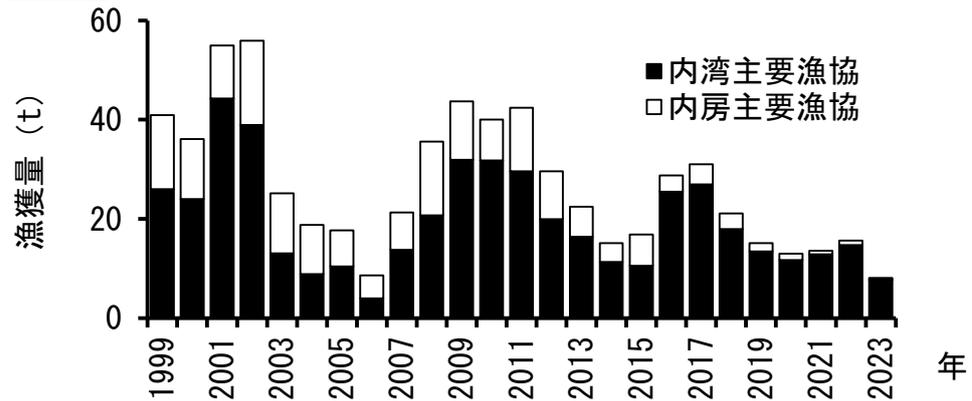
水準：低位



動向：横ばい



漁獲量



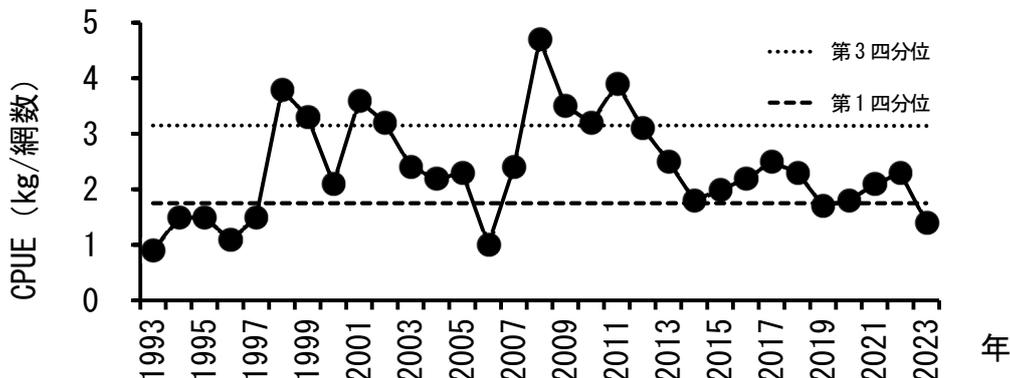
東京湾の主要漁協におけるコウイカ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

東京湾の主要漁協におけるコウイカ漁獲量は、1999年以降増減を繰り返し、近年では2017年に31tとなった後、減少傾向にあり、2023年には8tを記録した。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- 2023年の資源水準は低位、最近5年間の資源動向は横ばいとなった。



小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの1網当たり漁獲量 (CPUE: kg/網数) の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は3~12隻

資源管理の取組

- 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コウイカ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1996年から漁業者による産卵床の設置が行われている。

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

マダコ（外房）



- ・ 漁獲の多くは銚子・九十九里～外房で、たこつぼ、沖合底びき網などで漁獲される。
- ・ 広く回遊する群と地先に生息する群が存在し、広く回遊する群が漁獲量の大半を占める。
- ・ 漁獲盛期は12月～4月。

資源評価

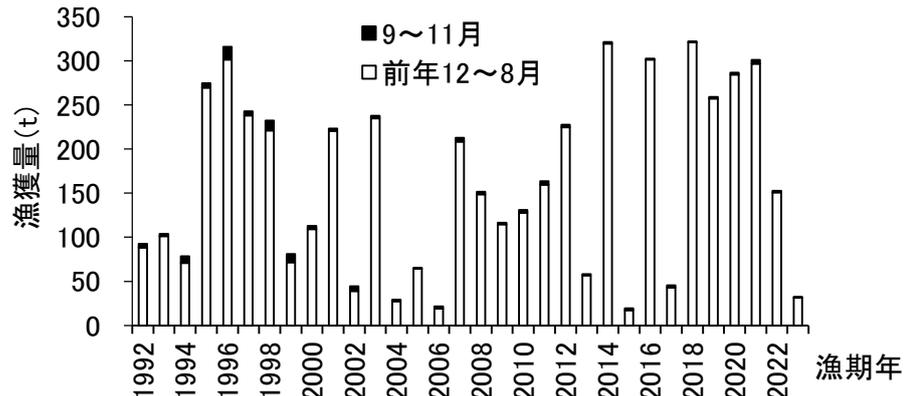
水準：高位



動向：減少



漁獲量



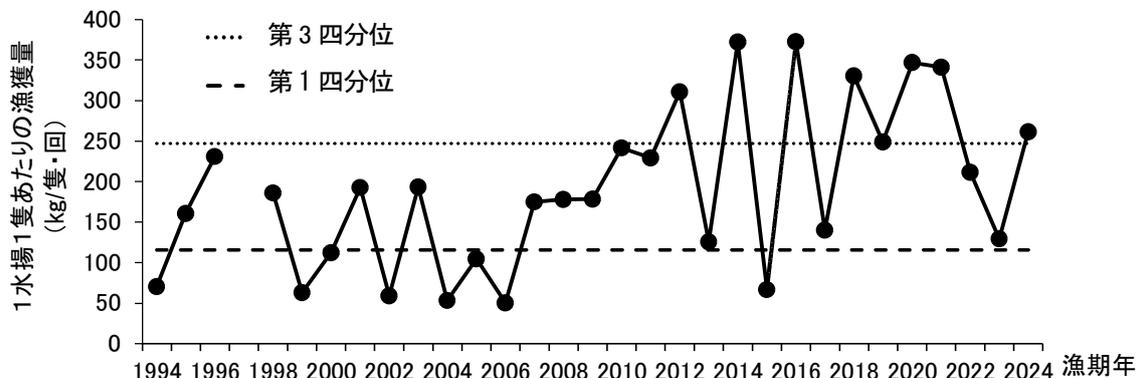
千葉県におけるマダコ漁期年別漁獲量の経年変化 (千葉県調べ。年は漁期年：前年12月～11月)

- ・ 千葉県全体の漁獲量は年ごとに大きく変動している。
- ・ 漁獲量は資源量その他、海況による回遊経路や時期の変動、茨城県以北の漁獲量等に影響を受けて変動すると考えられる。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、外房主要漁協におけるたこつぼ漁業の1993年以降のCPUE（1水揚1隻当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 変動が激しいが、2024年の資源水準は過去30年間で高位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。



外房主要漁協におけるたこつぼ漁業のCPUE（1水揚1隻当たりの漁獲量）の経年変化
年は漁期年（前年12月～8月）、1997年は隻数データ不明のため欠測。

資源管理の取組

- ・ たこつぼ漁業の漁業制限措置で、海域ごとに操業期間が定められている。

タチウオ



- ・ まき網, 小型機船底びき網, 定置網, 刺し網, はえ縄, 曳縄など, 様々な漁業で漁獲される。
- ・ 成長は非常に早く, 最大で 100cm 以上に成長する。
- ・ 寿命は 8 歳程度と推定されている。

資源評価

東京湾

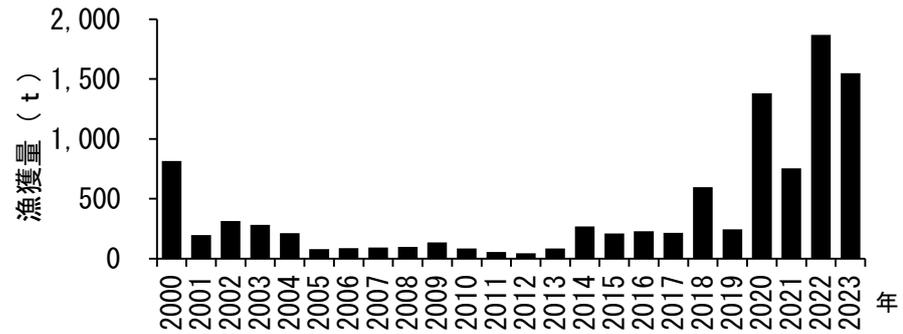
水準：高位



動向：増加



漁獲量



銚子九十九里地区

水準：高位



動向：増加



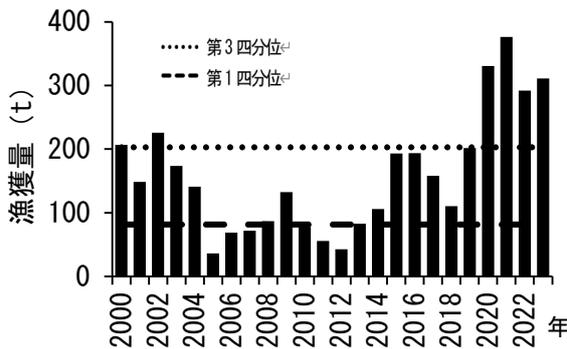
県内主要漁協におけるタチウオ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

県内主要漁協におけるタチウオ漁獲量は, 2000 年に約 800t を記録した後減少し, 2005~2012 年は概ね 100t 以下であったが, その後, 2020 年は急激に漁獲量が増加して 1,381t となり, 2023 年は 1,548t となった。

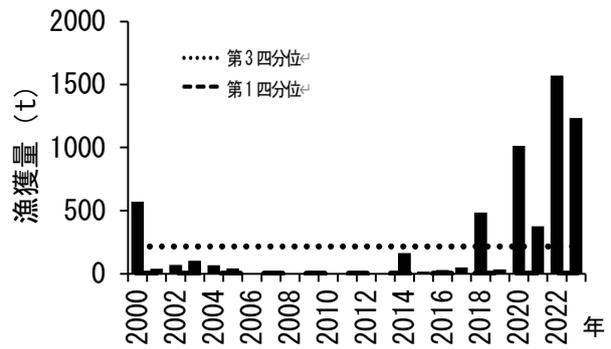
注) 資源水準は, 原則過去 20 年以上の評価指標値 (漁獲量) から四分位数により評価した。
資源動向は, 最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は, 2000 年以降の漁獲量で判断した。
- ・ 2023 の資源水準及び最近 5 年間の資源動向は, 東京湾, 銚子・九十九里地区ともに高位, 増加傾向にある。



東京湾主要漁協におけるタチウオ漁獲量の経年変化



銚子・九十九里地区主要漁協におけるタチウオ漁獲量の経年変化

資源管理の取組

- ・ 東京湾内湾の小型機船底びき網では, 休漁日の設定, 操業時間の制限, 漁具の制限など, タチウオ以外の魚種も含めて, 漁業者による自主的な資源管理が行われている。